

「デジタルミュージアムを活用して江戸時代の旅を探る」補足資料

2022年2月19日(土) 於ハイトピア伊賀 山形隆司

表1 富士山参詣の主な行程

月日	行程
6.20	出発→佐那具→加太→庄野(泊)
21	四日市(舟)→熱田→鳴海(泊)
22	岡崎→赤坂(泊)
23	二川→新文(舟)→浜松(泊)
24	原川→天竜川(舟)→金谷(泊)
25	岡部→老川(舟)→藤枝田川(橋)→府中(泊)
26	湯井(橋)→蒲原→富士川(舟)→村山、池西坊(泊)
27	大山三合目→(登拝)→大山中程(泊)
28	大宮→富士川(舟)→蒲原(泊)
29	興津川(橋)→府中(泊)
7. 1	島田→大井川(舟)→掛川(泊)
2	森川(橋)→こなら安(舟)→秋葉山(参詣)→石打(泊)
3	大野→鳳来寺(参詣)→長山(泊)
4	岡崎→鳴海(泊)
5	津島天王(参詣)→佐屋(舟)→桑名(泊)
6	庄野→加太(泊)
7	上野→帰村

※大山:富士山
(明治5年「富士山江参詣手覚帳」大垣家所蔵文書より)

表2 富士山登拝の費用(6月26日~28日分)

日	費目	金額(注記)
26日	池西坊にて泊	金5両3分1朱 (内、4両3分2朱は泊28人分、但し1人3朱ずつ、先達2人引)
	同所にて山役銭	銭3貫458文 (28人分、但し1人152文ずつ、先達2人引)
	強力2人代	金2分2朱
	強力2人へ山祝儀	金3朱
27日	大山三合目にて休	銭2貫文 (但し1人茶代銭80文ずつ)
	大山にて道つくり代宿々へ	銭1貫110文 (但し1人銭10文ずつ)
	大山にて納	銭5貫400文 (但し参詣相済戻り暮及び木山中程大米屋にて泊、飯参持にて1人宿代200文ずつ、但し先達1人引)
	村山、池西坊にて御札代	金2分銭200文
28日	同所にて茶代	金1朱
	大峰にて御札30枚ならびに判代	銭4貫500文
	大宮にて休	銭9貫450文 (都合よく山相済、一統相談の上、祝として酒のみ)
	総額	金7両3朱、銭26貫118文

(「富士山江参詣手覚帳」大垣家所蔵文書より)

表3 伊賀国における富士信仰関係石造物

No.	型式	地域	紀年	西暦	銘文
1	尖頭型石碑	伊賀市大野木 菅原大迎神社	元禄7年5月8日	1694	【種字(アーク)】南無浅間大菩薩/久左衛門 平右衛門 理兵衛/元禄七甲戌季五月八日
2	自然石碑	伊賀市法花 個人宅	享保15年	1730	【日輪・月輪】【種字(パン)】奉供養富士浅間垢離為二世安楽/施主 宗心 久作/享保十五庚戌年[]
3	方柱型石碑		明和3年6月8日	1766	【日輪・月輪】【種字(パン)】奉供養富士浅間垢離為二世安楽/施主 善五郎/明和三丙戌年六月八日
4	自然石碑		安永2年5月	1773	【日輪・月輪】【種字(パン)】富士浅間垢離為二世安楽/施主 仲林左衛門 善右衛門 平次 宗左衛門/安永二癸巳年五月吉日
5	円頭型石碑		享保17年6月	1732	【日輪・月輪】奉供養富士垢離二世安楽/享保十七[]六月吉日
6	円頭型石碑	伊賀市法花 菊昌院	寛延3年6月	1750	【日輪・月輪】奉供養富士垢離二世安楽/寛延三庚午年六月吉日
7	自然石碑		安永2年6月	1773	【日輪・月輪】奉供養富士垢離二世安楽/安永二年六月吉日
8	尖頭型石碑		天明3年6月	1783	【日輪・月輪】奉供養富士垢離講中/天明三癸卯年六月吉日
9	尖頭型石碑		寛政12年6月	1800	【日輪・月輪】奉供養富士垢離講中/寛政十二庚申天六月吉日
10	尖頭型石碑		文化9年6月	1812	【日輪・月輪】奉供養富士垢離講中/文化九壬申年六月吉日
11	自然石碑		文政13年7月	1830	【日輪・月輪】奉供養富士垢離講中二世安楽/文政十三庚寅年七月吉日
12	自然石碑		伊賀市北山 喜福寺北西	寛保2年6月8日	1742
13	円頭型石碑	伊賀市東高倉 平野地藏堂	寛保3年	1743	南無浅間大菩薩 南無大上権現 南無薬師如来/寛保三癸亥天□月吉日
14	自然石碑	伊賀市服部町 台上寺	延享元年5月	1744	【種字(パン)】富士大権現/延享元甲子天五月吉日
15	自然石碑	伊賀市三田 空鉢山	延享2年5月	1745	南無浅間大菩薩/延享二丑五月吉日
16	自然石碑	伊賀市上神戸 延命寺	明治39年2月	1906	富士浅間神社/我山中[]不捨/明治三十九年午二月建之
17	富士山型石碑	伊賀市比土 来迎寺横	-	-	富士山
18	自然石碑	伊賀市印代 清安寺	-	-	富士浅間大菩薩
19	自然石碑	名張市新田	-	-	【富士講之碑】
20	自然石碑	名張市美旗中村	-	-	【富士大権現】
21	自然石碑	名張市布生下出	-	-	【富士浅間之碑】

*本表の作成にあたっては、伊賀市史編さん室、名張市郷土資料館、(公財)元興寺文化財研究所・狭川真一氏からのご教示を賜った。

表4 『永代〇日参万人講道中記』の記載内容

伊賀街道(長野越)

地名	里程	記載
上野 天神宮		(神社の挿絵)、永代日御 供日々講中安全御祈念こ れあり候
上野 農人町辻		(道標の挿絵)、すく長の 越、左せき道
はせを里 花本大明神	5丁	(鳥居の挿絵)
西明寺	12丁	右側宿支度所 もちや喜右衛門
荒木	20丁	右側宿支度所 高砂茶や太右 衛門
山田	1里 8丁	左側宿支度所 わたや半平
大橋	2里半	左側宿支度所 大はしや七右 衛門
阿波大仏		かけぬけちか道あり
平松	10丁	右側宿支度所 板屋喜右衛 門
峠	50丁	右側宿支度所 さかいや半 三郎
長野	50丁	左側宿支度所 米屋清八
栗原	1里	右側宿支度所 大坂屋清兵へ
三軒	1里	左側宿支度所 伊賀や利右 衛門
羽野	1里半	左側宿支度所 神津わかや善 次、名代もちあり
久居	20丁	右側宿支度所 八丁屋源左 衛門
木造川	1里	(渡し舟の挿絵)、講中無 賃
月本	18丁	右側宿支度所 角屋清兵 衛
六軒	18丁	右側宿支度所 小津屋喜右 衛門
松坂	19丁	入口左側宿支度所 山川屋 長次郎
松坂	10丁	右側宿支度所 大寿賀や喜 兵へ
松坂	4丁	左側北詰支度所 もちや惣 兵へ、名物もち
大はし		(橋の挿絵)
松坂	6丁	右側宿支度所 大和屋与兵 衛
松坂	10丁	右側みやげものあり 戸羽 や長助
榑田	1里	右側宿支度所 米屋多郎兵 へ
くし田川	1丁	(渡し舟の挿絵)、講中無 賃

地名	里程	記載
榑田	半丁	左側宿支度所 ちとりや為 八
蔵川	8丁	(渡し舟の挿絵)、講中無 賃
明星	1里	左側宿支度所 とうみや半 助
明星	2丁	右側宿支度所 三田や三郎 兵へ
中明星	10丁	左側宿支度所 あめや勘蔵 新茶屋
新茶屋	12丁	(宿名の箇所黒塗り)
小ばた	1里	右側宿支度所 小林十兵衛
宮川	2丁	(渡し舟の挿絵)、無賃
山田	30丁	外宮御師上ノ久保丁 山口 角大夫
外宮前	6丁	広小八左側宿 北村や甚 右衛門
外宮	1丁	(鳥居の挿絵)、日ノ丸御 がく表門に納む
天の岩戸	12丁	
妙見町	18丁	左側宿 永井政右衛門
宇治	32丁	内宮御師中ノ切丁 右側 松 岡大夫
宇治	1丁	中ノ切町右側宿 きし田 や佐吉
宇治	1丁	内宮御師同右側 片岡大夫
うちはし		(橋の挿絵)
内宮	2丁	(鳥居の挿絵)、日ノ丸御 額二ノ御門内納
御神馬前		げくう御祓町左側 川北又 六、みやげものあり
朝熊だけ	50丁	右側宿支度所 たうふや喜 右衛門
		(道標の挿絵)、是より二 見道、八十五丁
福一万こく ぞうぼさつ	10丁	
奥の院	3丁	
朝熊村	35丁	左側宿支度所 橋本や安右 衛門
二見	50丁	左側宿支度所 角屋六郎右 衛門
	6丁	(夫婦岩から登る朝日の 挿絵)
川崎	1里半	船宿 吉田や久兵衛
宮川へ	1里	

大和街道・伊勢別街道(関越)

地名	里程	記載
上野 農人町辻		(道標の挿絵)、左せき道
佐那具	1里半	右側宿支度所 こんにやくや 小平次
つけ	2里半	左側宿支度所 いせや重右衛 門
一ツ家	31丁	左側宿支度所 もみじや長次 郎
加太	30丁	右側宿支度所 たうふや吉右 衛門
関	2里	左側宿 鶴屋吉兵衛
関	5丁	左側宿支度所 すずかや七右衛 門
関川	1丁	(橋の挿絵)、無賃
楠原	1里	右側宿支度所 亀屋弥兵衛
椋本	1里	左側宿支度所 恵比須や五郎 八
高野尾新 田	25丁	左側宿支度所 井筒や七郎兵へ
豊久野銭 かけ松	25丁	
同		右側宿支度所 ちとせや六兵衛
窪田	25丁	右側宿支度所 大和や甚大夫
津大門	1里半	(門の挿絵)、国府阿弥陀、講 中無銭開帳
大門前		左側宿 ひうたんや惣助
岩田ばし	6丁	(橋の挿絵)
えんま前	12丁	右側宿支度所 大黒屋藤兵衛
藤枝	7丁	(道標の挿絵)、左からす道、 五十丁
高茶や	25丁	右側宿支度所 小松や弥兵衛
北雲津	25丁	左側宿支度所 柏屋徳兵衛
雲津川	5丁	(渡し舟の挿絵)、講中無賃
南雲津		右側宿支度所 とかいや市兵 衛
月本へ	18丁	
		(道標の挿絵)、左からす道、 二り
からす	2里	(宿名の箇所黒塗り)
からす大 明神		(神社の挿絵)、藤枝へ五十丁

初瀬街道(阿保山越)

地名	里程	記載
名張		右側宿支度 江戸屋伝吉
追分	1里	左側宿支度所 茶屋清蔵
新田	18丁	左側宿支度所 井筒屋孫左衛 門
なな見	22丁	左側宿支度所 田中や義八
阿保	14丁	左側宿支度所 たわらや義左 衛門
伊勢地	30丁	左側宿支度所 立花や十太郎
青山峠	1里 14丁	左側宿支度所 いが茶屋三右 衛門
青山峠	32丁	左側宿支度所 いせ茶屋幸吉
垣内	1里 4丁	右側宿支度所 いがや吉兵衛
中野村	1里	右側宿支度所 村田や忠内

二本木	18丁	(宿名の箇所黒塗り)
二本木	4丁	右側宿支度所 角や和久右衛 門
大の木川	2里 14丁	(渡し舟の挿絵)、講中無賃
大の木	3丁	右側宿支度所 油屋新七
畑川	1里	(渡し舟の挿絵)、講中無賃
はた	1丁	右側宿支度所 万屋利兵衛
宮古・ 小川川	30丁	(渡し舟の挿絵)、講中無賃
小川	6丁	右側宿支度所 尾のや才兵へ
六軒へ	1里	

※()は注記

表1・2・4は、『伊賀市史』第2巻通史編 近世(2016年、伊賀市)
表3は、科研費報告書『17~19世紀の近畿・東海地方における富士信仰の受容』(2018年)より引用